

MailBox

メールボックス

経済同友会出向者からの近況報告 #7



From : 巻 和典

復興庁 インフラ構築班兼企業連携推進班
政策調査官

To : 経済同友会

Subject : 人との出会いからの成長

2017年4月に復興庁に出向しました。復興庁といえば、東日本大震災です。2011年当時、私は社会人になる直前で、テレビなどの情報を見て大変なことが起きていて、自分自身もどうなるか分からないなど感じていました。住んでいた関東でも停電や、日用品が少なくなるなど不安な日々を過ごしていた記憶があります。

所属元のLIXILグループでは、本社部門にいました。情報部門で社内システムの構築や運用をしていたため、社外の人と話す機会はあまりなく、出張をするような機会も少なかったです。そうした中、復興庁への出向という話があり、震災当時の記憶を思い出しながら、自分自身のステップアップだと感じ、この話に乗るしかなかったと感じました。

復興庁では、今までとまったく違う世界が広がっていました。例えば、国会。国の予算を決めるためにここまで多くの人が動いていたとは知りませんでした。また、各地方自治体などからの陳情。こちらもこんなに大臣宛てに来ているとは知りませんでした。

一番戸惑ったのが、人です。ここでは、被災地の方にとって一番よいことは何か、今後の未来に向けてどうするのが一番よいか、を

常に考えながら、皆が動いていました。それまでは、それぞれが個人の目標に向かって進めていくような職場でしたので、仕事の取り組み方を考え直さなければいけません。最初はついていくのに必死でした。

現在、多くの時間を費やしている仕事は、被災地で頑張っている企業を紹介する、産業復興事例集です。この事業は、被災地の企業の社長などを取材し、その内容を冊子やホームページに公開して広く配布します。東北復興の現状を東北以外に伝え、被災地内では、他の企業を見て「道しるべ」にさせていただくものです。

取材先では、今まで会ったことがない人にたくさん会うことができました。震災の記憶を現場で語り継いでいる人。甚大な被害を受けたにもかかわらず以前よりも元気になっている企業の社長。被災地外から大きな志を持って被災地に進出してきた人。試行錯誤しながら親父の技術を盗もうとしている後継者。まだまだ地域に人が戻らず苦しんでいる企業の社長。お話を聞いていく中で、感銘を受けたり、一緒に悩んだり、一緒に行動したりと、いろいろな刺激を受けることができました。

復興庁でいろいろな方に出会い、知ることができるのは、自分自身にとって今後大きな財産になるのではないかと考えています。この機会を与えてくださった方に感謝したいと思います。

震災の被災地では、7年がたとうとしている現在でも、風評や人が戻らないなど、まだまだ問題全ての解決はできていません。自分が被災地の方のお役に立っているという自信はありませんが、現状を広くお伝えしていく形で貢献できればと考えています。



宮城県女川町で



事例集の取材で訪れた福島県いわき市で